

後期：現代聖書学の諸問題

オリエンテーション

1. 創造論	
2. 一神教	
3. 契約思想	
4. 神殿神学・知恵文学	
5. 預言	11/9
6. 研究発表：侯	11/16
7. 研究発表：張	11/30
8. 研究発表：齋藤 or 南	12/7
9. 研究発表：齋藤 or 南	12/14
10. 研究発表：金、岡田	12/21
11. 研究発表：山下	1/4
12. 終末論・史的イエス	1/11
13. イエスの譬え	1/18
14. 初期キリスト教と女性	1/25
15. パウロと政治神学 → 火曜日の「聖書演習」へ	

<前回>契約思想

(1) 契約思想の源流と類型

- 1. 古代オリエントにおける契約思想
 - ・マリ文書(Mari-text) ・ヒッタイトの契約文書（紀元前 1400-1200）、モーセ時代

3. 契約の類型

- ・アブラハム系列：「神が責任を負う」
 - アブラハム契約、ダビデ契約（サムエル下 23.5、3.9、詩編 89.28-29）、ノア契約、
- ・モーセ系列：「イスラエルが責任を負う」
 - シナイ契約・十戒、ヨシュアの契約（ヨシュア 24）

(2) 契約思想

- 4. 「神－人間（共同体・民族→個人）」の関係＝契約関係、人格関係における神（人格神）

- 5. 契約の構造：「約束－信頼」 → 責任性・違反への罰則・人格的な関係

約束：子孫の数の増加と土地の取得

→

神

アブラハム（民族の父→古代イスラエル民族）

←

信頼

- ・古代イスラエル宗教は典型的な民族宗教である。
- 6. 「信頼」という要素とその根拠。創造論は古いクレドの「前面への拡張建築」
- 7. 契約の起源・由来（創造論）と契約の結末・成就（終末論）
 - 約束は成就を含意する→実現のプロセス→聖書の歴史観（救済史）

8. 契約と社会・法

- ・十戒（出エジプト 20.1-17）→「契約の書」（20-23）

宗教法（神と人間）から一般法（人間相互）へ

9. 契約：法から精神へ

- ・法の実体的基盤が喪失するときどうなるか。→ 実体変化
エレミアの新しい契約（31.31）、「心にそれを記す」（31.33）

4. 神殿神学・知恵文学

(1) 統一王国とその意義

1. 統一王国の意義

外敵（ペリシテ人は職業軍人の重装歩兵を有していた）への軍事的対抗

↓

政治的安定・領土拡張

↓

経済と文化の繁栄

2. 王権成立の経緯

<サムエル記上>

8:6 裁きを行う王を与えよとの彼らの言い分は、サムエルの目には悪と映った。そこでサムエルは主に祈った。7 主はサムエルに言われた。「民があなたに言うままに、彼らの声に従うがよい。彼らが退けたのはあなたではない。彼らの上にわたしが王として君臨することを退けているのだ。8 彼らをエジプトから導き上った日から今日に至るまで、彼らのすることといえば、わたしを捨てて他の神々に仕えることだった。あなたに対しても同じことをしているのだ。9 今は彼らの声に従いなさい。ただし、彼らにはっきり警告し、彼らの上に君臨する王の権能を教えておきなさい。」

8:20 我々もまた、他のすべての国民と同じようになり、王が裁きを行い、王が陣頭に立って進み、我々の戦いをたたかうのです。」21 サムエルは民の言葉をことごとく聞き、主の耳に入れた。22 主はサムエルに言われた。「彼らの声に従い、彼らに王を立てなさい。」サムエルはイスラエルの人々に言った。「それぞれ、自分の町に帰りなさい。」

3. 調停者としての王

cf. 古代オリエントの王権イデオロギー：絶対権力者としての王

地上における神の代理、神の子、あるいは神的な存在 → 近代の王権神授説

4. 王自身が一人の人間であり、罪人である。

ダビデの罪（ウリヤの妻バト・シェバを奪い妻とした）と預言者ナタンによる糾弾

<詩編 51> 51:1 【指揮者によって。賛歌。ダビデの詩。2 ダビデがバト・シェバと通じたので預言者ナタンがダビデのもとに来たとき。】

3 神よ、わたしを憐れんでください／御慈しみをもって。深い御憐れみをもって／背きの罪をぬぐってください。4 わたしの咎をことごとく洗い／罪から清めてください。5 あなたに背いたことをわたしは知っています。わたしの罪は常にわたしの前に置かれています。6 あなたに、あなたのみにもわたしは罪を犯し／御目に悪事と見られることをしました。あなたの言われることは正しく／あなたの裁きに誤りはありません。7 わたしは咎のうち

に産み落とされ／母がわたしを身ごもったときも／わたしは罪のうちにあったのです。

5. 文化の繁栄

文化活動の場としての宮廷

- ・ヘブライ文字の成立（ダビデ王時代との説もある。

↓

<http://www.christiantoday.co.jp/main/theology-news-467.html>

文学活動の開始：「ダビデ台頭史」（サムエル上 16 章～下 5 章）、「ダビデ王位継承史」（サムエル下 9 章～列王記上 2 章）、あるいは族長物語。

- ・音楽：楽器（豎琴）の名手ダビデ
- ・学問の発展（書記学校の成立）→知恵文学・知恵思想

知者ソロモン

6. 経済の繁栄 → 古代イスラエルの絶頂（過去の理想化）

「栄華を極めたソロモン」（マタイ 6.29、ルカ 12.27）

- ・貿易が富をもたらす → 財宝伝説

南アラビアのシェバ（シバ）の女王がソロモンを訪問、栄華と知恵に驚嘆

7. <列王記上 10>

1 シェバの女王は主の御名によるソロモンの名声を聞き、難問をもって彼を試そうとしてやって来た。2 彼女は極めて大勢の随員を伴い、香料、非常に多くの金、宝石をらくだに積んでエルサレムに来た。ソロモンのところに来ると、彼女はあらかじめ考えておいたすべての質問を浴びせたが、3 ソロモンはそのすべてに解答を与えた。王に分からない事、答えられない事は何一つなかった。4 シェバの女王は、ソロモンの知恵と彼の建てた宮殿を目の当たりにし、5 また食卓の料理、居並ぶ彼の家臣、丁重にもてなす給仕たちとその装い、献酌官、それに王が主の神殿でささげる焼き尽くす献げ物を見て、息も止まるような思いであった。6 女王は王に言った。「わたしが国で、あなたの御事績とあなたのお知恵について聞いていたことは、本当のことでした。7 わたしは、ここに来て、自分の目で見ると、そのことを信じてはいませんでした。しかし、わたしに知らされていたことはその半分にも及ばず、お知恵と富はうわさに聞いていたことをはるかに超えています。8 あなたの臣民はなんと幸せなことでしょう。いつもあなたの前に立ってあなたのお知恵に接している家臣たちはなんと幸せなことでしょう。9 あなたをイスラエルの王位につけることをお望みになったあなたの神、主はたたえられますように。主はとこしえにイスラエルを愛し、あなたを王とし、公正と正義を行わせられるからです。」10 彼女は金百二十キカル、非常に多くの香料、宝石を王に贈ったが、このシェバの女王がソロモン王に贈ったほど多くの香料は二度と入って来なかった。11 また、オフィルから金を積んで来たヒラムの船団は、オフィルから極めて大量の白檀や宝石も運んで来た。12 王はその白檀で主の神殿と王宮の欄干や、詠唱者のための豎琴や琴を作った。このように白檀がもたらされたことはなく、今日までだれもそのようなことを見た者はなかった。13 ソロモン王は、シェバの女王に対し、豊かに富んだ王にふさわしい贈り物をしたほかに、女王が願うものは何でも望みのままに与えた。こうして女王とその一行は故国に向かって帰って行った。家」に置いた。

8. 多民族国家イスラエル（←領土拡張）と民衆への重税・強制労働

<列王記上 5>

27 ソロモン王はイスラエル全国に労役を課した。そのために徴用された男子は三万人であった。28 王は彼らを一万人ずつ一か月交替でレバノンに送った。すなわち、一か月はレバノンに、二か月は自分の家にとどまるようにした。この労役の監督はアドニラムであった。29 またソロモンには、荷役の労働者が七万人、山で石を切り出す労働者が八万人いた。30 そのほか、ソロモンには工事の責任を取る監督が三千三百人いて、工事に携わる民を指揮した。31 神殿の土台の切り石とするため、大きな質の良い石を切り出すように、と王に命じられ、32 ソロモンの石工たちは、ヒラムの石工たちやゲバル人と共同で石を切り出した。こうして、神殿建築用の木材も石材も整った。

9. 寄留者への配慮

<レビ記> 23:22 畑から穀物を刈り取るときは、その畑の隅まで刈り尽くしてはならない。収穫後の落ち穂を拾い集めてはならない。貧しい者や寄留者のために残しておきなさい。わたしはあなたたちの神、主である。

<出エジプト> 23:9 あなたは寄留者を虐げてはならない。あなたたちは寄留者の気持を知っている。あなたたちは、エジプトの国で寄留者であったからである。

(2) 王国期の宗教と神殿神学

10. 部族連合イスラエルからイスラエル王国（ダビデ＝ソロモン王朝）へ
部族連合と反王権主義の伝統への大きな変更

11. 王国形成は宗教の統合でもあった

- ・ 地方聖所からエルサレムの神殿
- ・ 神殿を中心とする宗教秩序
- ・ 王権の正当化 → 政治神学の成立

12. 神殿とは何か。

- ・ 天と地の接点、宇宙の中心、神の臨在する場所：ヒエロファニーとコスモスの生成
「聖なる山、あなたのいますところ」（詩編 43.3）

「会見の幕屋」

↓

都市、神殿（聖所、至聖所）

- ・ 儀礼の場→政治と生活の中心
儀礼：犠牲を捧げる、王の即位
祭り：
・ 偶像禁止

13.<詩編 132>

11 主はダビデに誓われました。それはまこと。思い返されることはありません。「あなたのもうけた子らの中から／王座を継ぐ者を定める。12 あなたの子らがわたしの契約と／わたしが教える定めを守るなら／彼らの子らも、永遠に／あなたの王座につく者となる。」

132:13 主はシオンを選び／そこに住むことを定められました。14 「これは永遠にわたしの憩いの地。ここに住むことをわたしは定める。15 シオンの食糧を豊かに祝福し／乏しい者に飽きるほどのパンを与えよう。16 祭司らには、救いを衣としてまとわせる。わた

しの慈しみに生きる人は／喜びの叫びを高くあげるであろう。17 ダビデのために一つの角をそこに芽生えさせる。わたしが油を注いだ者のために一つの灯を備える。18 彼の敵には、恥を衣としてまとわせる。王冠はダビデの上に花開くであろう。」

14. <ルカ 2>

21 八日たって割礼の日を迎えたとき、幼子はイエスと名付けられた。これは、胎内に宿る前に天使から示された名である。22 さて、モーセの律法に定められた彼らの清めの期間が過ぎたとき、両親はその子を主に献げるため、エルサレムに連れて行った。23 それは主の律法に、「初めて生まれる男子は皆、主のために聖別される」と書いてあるからである。24 また、主の律法に言われているとおりに、山鳩一つがいか、家鳩の雛二羽をいけにえとして献げるためであった。

<参考文献>

1. 月本明男・小林稔編 『聖書の風土・歴史・社会』（現代聖書講座第1巻）
日本キリスト教団出版局。
2. R.E.クレメンツ 『旧約聖書における神の臨在思想』教文館。
3. 並木浩一 『旧約聖書における文化と人間』教文館。
4. 芦名定道 『宗教学のエッセンス——宗教・呪術・科学』北樹出版。

（3）王国と知恵文学

1. 旧約聖書の「知恵文学」：ヨブ記、詩篇の一部、箴言、コヘレトの言葉
外典の知恵の書、シラ書（集会の書）
2. 創造や契約をめぐる諸思想を前提として、それを古代イスラエル民族が置かれた歴史的状況（王国形成・崩壊からバビロン捕囚、地中海・オリエント世界そしてヘレニズム世界の国際関係）において展開したものと位置付けられる。
3. 知恵文学の成立の場：フォン・ラートらの旧約聖書研究→宮廷知識人、とくにエジプトの書記学校に相当する官吏養成 学校の知識人
 - (1) 共同体の知恵（伝承）
 - (2) 対外的な国際関係が要求する国際的な知恵
4. 共同体の知恵：共同体の一員として習得すべき知恵（＝慣習的知恵）
因果応報原理の中心的な役割。
箴言1章8節「わが子よ、父の諭しに聞き従え。母の教えをおろそかにするな。」

（4）ヘブライ的知恵文学の思想的特徴

- ①創造の知恵、あるいは知恵による創造
世界に内在する法則性への信頼→神への信頼＝「神への畏れ」
知恵思想は創造論を前提とし、それを展開する内容をもっている。この点は、下に引用した箴言8章において、神が天地創造に先だって、最初に「知恵」を創造した。
- ②神の創造行為の探求と称賛としての科学 → 自然を通じた神の讃美
→ 自然神学（書物としての自然）
- ③「知恵のある生活」

日常的な実践に関わる知恵に中心が置かれている。箴言14章などに見られる一連の対照（「神を畏れる一神に逆らう」→「知恵—無知」、「正しい—悪しき」、「謙虚—高慢」）からもわかるように、知恵は共同体において正しく・賢明に生きることを可能にする実践的知恵、世代から世代へと伝承された知恵。共同体の知恵は共同体の集団的な自己同一性の核心に属している。

④因果応報とその限界。個人の問題として、そして共同体・民族の問題として。

この因果応報の様々な破れを鋭く描き、因果応報の限界をはっきり見据えている。

「コヘレトの言葉」（「なんという空しさ、なんという空しさ、すべては空しい」）

「ヨブ記」は、正しく生きる人間（義人）が不幸になる、という問題（義人の苦難）

（5）ヨブ記

5. 人生の謎（悪・罪・不幸・不条理・無意味・不正義）に対して、宗教は何を語るのか。

謎に直面するとき、宗教の真価が問われる。

6. ヨブ記をどのように読むか。

・散文体での枠組みの位置づけの問題

・文学作品としてのヨブ記 → 思想にとって文学とは何か。

7. 明確な論点とわかれる論点

・因果応報の破綻の後の世界

・ヨブは納得・了解したのか、救われたのか。

8. ユングのヨブ解釈

「神の変容」のプロセスにおけるヨブ記の意義。

・ヨブの道徳的な優位

・非合理的で暴虐な神から合理性を有する神（神の人間化）へ

悪の問題への対処

<聖書引用>

1. 箴言 1:7 主を畏れることは知恵の初め。無知な者は知恵をも論しをも侮る。8 わが子よ、父の論しに聞き従え。母の教えをおろそかにするな。 8:22 主は、その道の初めにわたしを造られた。いにしへの御業になお、先立って。 23 永遠の昔、わたしは祝別されていた。太初、大地に先立って。

11:1 偽りの天秤を主はいとい／十全なおもり石を喜ばれる。 2 高慢には軽蔑が伴い／謙遜には知恵が伴う。 3 正しい人は自分の無垢に導かれ／裏切り者は自分の暴力に滅ぼされる。 4 怒りの日には、富は頼りにならない。慈善は死から救う。 5 無垢な人の慈善は、彼の道をまっすぐにする。神に逆らう者は、逆らいの罪によって倒される。 9 神を無視する者は口先で友人 を破滅に落とす。神に従う人は知識によって助け出される。

2. 詩編 19:2 天は神の栄光を物語り／大空は御手の業を示す。 3 昼は昼に語り伝え／夜は夜に知識を送る。 4 話すことも、語ることもなく／声は聞こえなくても 5 その響きは全地に／その言葉は世界の果てに向かう。そこに、神は太陽の幕屋を設けられた。

3. ヨブ記

1:1 ウツの地にヨブという人がいた。無垢な正しい人で、神を畏れ、悪を避けて生きていた。 2 七人の息子と三人の娘を持ち、 3 羊七千匹、らくだ三千頭、牛五百くびき、雌ろば

五百頭の財産があり、使用人も非常に多かった。彼は東の国一番の富豪であった。4 息子たちはそれぞれ順番に、自分の家で宴会の用意をし、三人の姉妹も招いて食事をするにしていた。5 この宴会が一巡りするごとに、ヨブは息子たちを呼び寄せて聖別し、朝早くから彼らの数に相当するいけにえをささげた。「息子たちが罪を犯し、心の中で神を呪ったかもしれない」と思ったからである。ヨブはいつもこのようにした。6 ある日、主の前に神の使いたちが集まり、サタンも来た。7 主はサタンに言われた。「お前はどこから来た。」「地上を巡回しておりました。ほうぼうを歩きまわっていました」とサタンは答えた。8 主はサタンに言われた。「お前はわたしの僕ヨブに気づいたか。地上に彼ほどの者はいまい。無垢な正しい人で、神を畏れ、悪を避けて生きている。」9 サタンは答えた。「ヨブが、利益もないのに神を敬うでしょうか。10 あなたは彼とその一族、全財産を守っておられるではありませんか。彼の手の業をすべて祝福なさいます。お陰で、彼の家畜はその地に溢れるほどです。11 ひとつこの辺で、御手を伸ばして彼の財産に触れてごらんください。面と向かってあなたを呪うにちがいありません。」12 主はサタンに言われた。「それでは、彼のものを一切、お前のいいようにしてみるがよい。ただし彼には、手を出すな。」サタンは主のもとから出て行った。

2:8 ヨブは灰の中に座り、素焼きのかけらで体中をかきむしった。9 彼の妻は、／「どこまでも無垢でいるのですか。神を呪って、死ぬ方がましでしょう」と言ったが、10 ヨブは答えた。「お前まで愚かなことを言うのか。わたしたちは、神から幸福をいただいたのだから、不幸もいただくのではないか。」このようになって、彼は唇をもって罪を犯すことをしなかった。

3:1 やがてヨブは口を開き、自分の生まれた日を呪って、2 言った。3 わたしの生まれた日は消えうせよ。男の子をみごもったことを告げた夜も。4 その日は闇となれ。神が上から顧みることなく／光もこれを輝かすな。

31:35 どうか、わたしの言うことを聞いてください。見よ、わたしはここに署名する。全能者よ、答えてください。わたしと争う者が書いた告訴状を 36 わたしはしかと肩に担い／冠のようにして頭に結び付けよう。37 わたしの歩みの一步一步を彼に示し／君主のように彼と対決しよう。38 わたしの畑がわたしに対して叫び声をあげ／その敵が泣き 39 わたしが金を払わずに収穫を奪って食べ／持ち主を死に至らしめたことは、決してない。もしあるというなら 40 小麦の代わりに茨が生え／大麦の代わりに雑草が生えてもよい。ヨブは語り尽くした。

32:1 ここで、この三人はヨブに答えるのをやめた。ヨブが自分は正しいと確信していたからである。2 さて、エリフは怒った。この人はブズ出身でラム族のバラクエルの子である。ヨブが神よりも自分の方が正しいと主張するので、彼は怒った。3 また、ヨブの三人の友人が、ヨブに罪のあることを示す適切な反論を見いだせなかったもので、彼らに対しても怒った。4 彼らが皆、年長だったので、エリフはヨブに話しかけるのを控えていたが、5 この三人の口から何の反論も出ないのを見たので怒ったのである。

38:1 主は嵐の中からヨブに答えて仰せになった。2 これは何者か。知識もないのに、言葉を重ねて／神の経綸を暗くするとは。3 男らしく、腰に帯をせよ。わたしはお前に尋ねる、わたしに答えてみよ。4 わたしが大地を据えたとき／お前はどこにいたのか。知っていたというなら／理解していることを言ってみよ。

40:1 ヨブに答えて、主は仰せになった。2 全能者と言い争う者よ、引き下がるのか。神を

責めたてる者よ、答えるがよい。3 ヨブは主に答えて言った。4 わたしは軽々しくものを申しました。どうしてあなたに反論などできましょう。わたしはこの口に手を置きます。5 ひと語りましたが、もう主張いたしません。ふた言申しましたが、もう繰り返しません。6 主は嵐の中からヨブに答えて仰せになった。

42:12 主はその後のヨブを以前にも増して祝福された。ヨブは、羊一万四千匹、らくだ六千頭、牛一千くびき、雌ろば一千頭を持つことになった。13 彼はまた七人の息子と三人の娘をもうけ、14 長女をエミマ、次女をケツィア、三女をケレン・ブクと名付けた。15 ヨブの娘たちのように美しい娘は國中どこにもいなかった。彼女らもその兄弟と共に父の財産の分け前を受けた。16 ヨブはその後百四十年生き、子、孫、四代の先まで見る事ができた。17 ヨブは長寿を保ち、老いて死んだ。

<参考文献>

1. フォン・ラート『イスラエルの知恵』日本基督教教団出版局。
2. 並木浩一『旧約聖書における文化と人間』、『「ヨブ記」論集成』教文館。
3. 富樫遯一『旧約聖書の「知恵・教訓文学」』松籟社。
4. 関根正雄『旧約聖書文学史 上下』岩波全書。
5. 関根清三『旧約聖書と哲学——現代の問いのなかの一神教』岩波書店。
6. C.G.ユング『ヨブへの答え』林道義訳、みすず書房。
7. 宮下聡子『ユングにおける悪と宗教的倫理』教文館。